



しいかたり

この一首は、「天皇」が「志斐の姫」に賜った歌です。直前の『万葉集』巻三の冒頭歌(二三五番歌)にもこの歌にも、「天皇」とだけあって



不聴と言へど 強ふる志斐のが 強語
このころ聞かずて 朕恋ひにけり

訳

もう聞きたくないというのに強いる志斐の強い語りだけれど、近頃は聞かないので私は恋しく思っているようだ。

持統天皇 卷三(二二六番歌)

何天皇かは明記されていないこと

から、天武天皇説、持統天皇説、文武天皇説があります。歌の内容や配列などから、現在は一般に持統天皇と考えられています。

「姫」とは高齢の女性を意味し、「志斐」はこの次に載る「志斐の姫」が答えた歌(二三七番歌)の題詞の下に「名は未詳」と注があることから、氏の名であるとみられます。「志斐」は「新撰姓氏録」にみえる「中臣志斐連」や「阿倍志斐連」との関わりが指摘されていますが、よくわかっていません。

持統天皇が、もう志斐の「強語」を聞きたくないのに聞かないと恋しくなると詠んだのに対して、姫は「否と言へど語れ語れと詔らせこそ志斐は奏せ強語といふ」(二三七番歌)と、もう話さないと断っているのに語れ語れと仰るから言うのだ、これこそ「強語」だ、と返している。

ます。

「強語」とはこじつけ話のこととされ、二二六番歌は「志斐」という氏の名にかけて天皇が姫をからかった歌といえます。それに対して姫は、無理やり語らせることをこそ「強語」というのだ、と機転を利かせて返しました。同じ音を繰り返して詠む即興的な戯れの歌であり、天皇と側近の女性との間の親しげな様子がかがえます。

持統天皇は、六八九年に「撰善言司」を任命しており、中国の『古今善言』にならって先人の説話を集成し修養に役立てようとした可能性が指摘されています。志斐の姫と呼ばれた女性も、言葉に関する教育係のようなものだったのでないかともいわれます。

心を潤し、人を育てるのは、今も昔も言葉であるようです。(本文 万葉文化館 井上さやか)



所 橿原市縄手町178-1
時 9時～17時(入室は16時30分まで)
休 月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)
年 年末年始(12月25日～1月5日)
問 橿原市世界遺産登録推進課
☎0744-21-1114

橿原市藤原京資料室は、持統天皇が694年に遷都した藤原京の大極殿跡西側にあります。藤原京のジオラマ模型をはじめ、柱や瓦などの出土品や古代衣装などを展示しています。入室無料。駐車場あり。



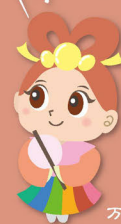
藤原京1/1000スケールのジオラマ模型

橿原市藤原京資料室

万葉ちゃんの

つぶやき

和歌に関連するものを紹介するよ!



万葉ちゃん